ひびく家族の医療費

十月から健保医療費改正

去る十月一日から健康保険の医療費が大巾改正となり、合理化された医療費（甲表）が生まれました。では、これはどういうことかというと、健保の医療費は平均で八・五％が引上げられ、点数表（料金表）は大巾にかわることになったのです。この改正について、本紙で厚生部に詳細な内容を調べてもらいました。

料金表は甲乙に

健康保険の医療費は単価に点数をかけて計算されますが、十月一日から単価はすべて十円となり、点数表（料金表）は甲表と乙表の二本建となります。しかし、歯科の料金表は甲表とおなじ趣旨でつくられた料金表一本です。

○保険の医療機関は「甲」と「乙」に分れます

健保を取扱うお医者さんは、甲表か乙表のどちらかを選ぶことになり、十月からは甲表のお医者さんと乙表のお医者さんができることになります。しかし歯科のお医者さんには甲、乙の別はありません。

○甲の料金表は診断や技術を重くみた医療費

病気を正確に診断して一日も早くなおすのが医療の目的です。そのために、いろいろな検査、診断で病状を正しく知り、いちばん適した治療法を指示してくれるお医者さんの技術には、十分の報酬を支払うべきです。

ところが現在の制度では、医師の生命ともいうべき診断料などは安く、注射や投薬に医師の利益が含まれています。注射や投薬で儲けがあるからといって、やたらに注射をしたり、治療が長びくということがあっては困ります。注射や投薬で儲けるのではなく、医師の診断料、その他技術料を中心に医療費を支払うようにしようというのが、医療費合理化のかんがえ方で、このかんがえ方でできているのが甲表です。

おなじ注射（ストマイ一G＝一三〇円）をした場合、甲表と乙表では支払がつぎのようになります

甲表、一三〇円＝薬の原価だけ

乙表、二一九円＝一三〇円（薬の原価）＋八九円（注射料）

つまり、乙表では注射代（お医者さんの儲け）分だけ高くなります。

○乙表は現行のまま値上げ

乙表はだいたい現行制度のまゝ点数を引上げたもので、注射や投薬で医師が儲けるという現在の制度の不合理は、そのまゝとなっております。お医者さんは原則として甲表を使用することになっていますが、一挙に甲表だけに改革してしまうと困るお医者さんもあるので乙表がつくられ、これを選ぶことができるようになっています

○初診料

初診料は甲表が一八〇円、乙表が五〇円です（いずれも乙地）

甲表の初診料には診察料のほかかんたんな検査、処置料もいっしょに入っています。投薬や注射をしたときはその実費だけが加算されます。

乙表は初診料は診察料だけで、投薬、注射、検査、処置などはそれぞれべつに計算して加算されます。

また、注射や投薬などは実費のほかに医師の利益がくわえられます。したがって、甲表の初診料が乙表にくらべて高いということではなく、医療費は全体として比較する必要があります。

いま、診察をうけ、一種類の薬（二日分）と皮下注射をしてもらったかんたんな場合の支払額をくらべてみましょう。

㋑投薬、注射の薬の原価が一七円のとき

甲表　初診料＋投薬の原価＋注射薬の原価＝二三七円

乙表　初診料＋投薬の原価＋調剤料、処方料＋注射料

注射薬の原価＝二一三円

㋺投薬、注射の薬の原価が五〇円のとき

甲表　初診料＋投薬の原価＋注射薬の原価＝二三七円

乙表　初診料＋投薬の原価、調剤料、処方料＋注射薬の原価、注射料＝三〇三円

（さらに注射、投薬が多いと甲表の方がはるかに安くなる）

○本人の一部負担は變りません

点数表（料金表）は変りましたが、健康保険としての一部負担制度はこれまでとおなじです。被保険者は従来どおり初診のときに一〇〇円まで、家族のときは、かかった費用の半額を支払うことになります。したがって、点数表がかわったため大巾に影響をうけるのは家族の医療費です。

○サテどちらの病院へ

医療機関が甲表、乙表に分れる結果、とくに医療費の半額を負担しなければならない家族の人達は病気にかかったら一体どちらの病院にかゝればよいかということが切実な問題となってきますが、経済的な面からのみいえば、だいたい内科、小児科疾患のように投薬注射を主とする病気のときは、甲表病院が安くつき、外科、眼科、耳鼻科疾患のように処置や手術を主とする病気のときに、乙表病院が安くつくようです。しかし、これも総括的にいえることで、個々の病気にあてはめてみると必ずしもそうでない場合もあり、どちらをとってよいかかんたんにきめることは難しいようです。

たゞよくかんがえねばならぬことは、甲表を選んだ病院は手術の技術面、施設面において大きな自信をもち、甲表の方がいゝと判断した病院であり、乙表を選んだ病院は、たとえ手術は安くとも、注射、投薬等による利益をかんがえれば、乙表は捨て難いと判断した病院であるということです。

医療機関は経済的な意味のみで選択すべきものではないということを十分かんがえておかねばなりません。

映画

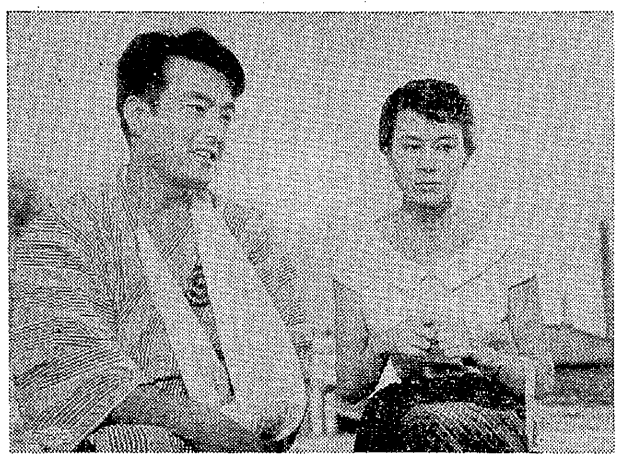
八幡製鉄所に取材した青春のドラマ

この天の虹

【かいせつ】名匠木下恵介監督が師弟愛の「二十四の瞳」夫婦愛の「喜びも悲しみも幾歳月」母子愛の「楢山節考」につづいて製作する人間愛の四部作で、ここでは友愛を骨子にうつくしいロマンスを展開させている。

【すとおりい】ここは巨大なメカニズムを誇る日本一の製鉄工場―相良は、天をおう黒煙のなかに虹のようなうつくしい希望をえがいてせつせと仕事に精進していたが従業員食堂で事務員の千恵を見て以来、妻に得たいと思い、上長の影山夫妻に仲人をたのんだ。影山は、職工をふりだしにえいえい三十年、この工場で働きつづけた男だが、息子の稔が工場の採用試験におちてグレはじめたので、停年ちかい老いの胸をいためていた。その影山の家に下宿している須田は、稔とおなじ年で胸いっぱい青雲の志をいだく好青年だった。千恵は、技師の町村を愛し、結婚まで心にえがいているが町村は彼女の心を知らず、上長の令嬢と見合いをし、結婚の意義を思うと不意に千恵への愛情をおぼえる。千恵の交際相手がちかく海外に派遣されるほどの秀才だとわかると職工勤めの夫の苦労を知る母は、この縁談をまとめたいと思う。千恵の兄京一郎は、看護婦八重子と恋仲で負傷したときなど八重子は徹夜で看病するのだった。八重子はある夜、親戚の久子をおとずれるが、そこに下宿している町村に久子が道ならぬ恋をしかけているのを知りガク然とする。おなじ職場の相良を兄のごとく慕う須田は、千恵がなぜ縁談をことわったのか疑問に思うが、千恵にはすでに意中の人があったと知り落胆し、作業中に負傷するが相良と千恵があかるい顔で見舞いにおとずれるので、男女のうつくしい心のまじわりを知り、個個の人間の営みがこの大工場をささえているのだと気づき、天に虹をかけたごとく洋洋たる未来への夢をえがくのだった。

【二十九日より松竹系封切館で】



〝三作短歌〟を発刊

三作短歌サークル誌

さきに発足をみた三作文学短歌サークルでは、かねて計画されていた機関誌〝三作短歌〟の第一号が発行された。

〝三作文学〟の絶刊いらい、文学誌の刊行がまたれていたが、短歌誌がこれにかわって刊行されたわけである。

第一号は二十三ページ、岩本宗二郎氏の短歌批評をはじめ、短歌作品、随筆などがもられている。

こんど毎月一回発行の予定であるが、同短歌サークルの活動からみても、〝三作短歌〟は号を追うごとに充実するものとみられている。

心のふるさと

〝ハア佐渡へ（アリヤサ）
佐渡へと草木もなびくよ
（ハア　アリヤ　アリヤ
アリヤサ）
佐渡は居よいか　住みよいか
（ハア　アリヤ　アリヤ
アリヤサ）
〝おけさ踊るなら　板の間で踊れ
板のひびきで　三味やいらぬ
〝二度と惚れまい　他国の人に
末は鳥の　泣き別れ
〝雪の新潟　吹雪に暮れてよ
佐渡は寝たかよ　灯も見えぬ
〝来いというたと
行かりよか佐渡へ
佐渡は四十九里　波の上

俳人芭蕉の句「あら海や佐渡に横たう天の川」、また「来いというたとて」のおけさの歌詞や、順徳帝、日蓮、世阿弥らの流された島として古くから有名な「佐渡ケ島」は、遠い日本海上の孤島のような感じさえ私たちにあたえさせています。

「おけさ」は佐渡の国歌であり、また島歌でもあるわけです。

この一市（西蒲）一郡（佐渡）からなる佐渡ケ島では高校の正科にも「おけさ」がとり入れられ、生徒たちも踊れば、バスの車掌さんはもちろんのこと、運転手さんでも町の旦那衆でもたいおどるというたぐあいに、まさに〝おけさ〟一色の島であります。だいたい、本場は相川というところで元祿袖の衣裳、白足袋に草履ばき、それに編笠といったイデタチで踊られています。

相川は江戸時代、幕府の金山奉行の設置された地で、金山の全盛期は一六一三年（慶長十八年）前後だったそうで、人口は十万をこえたともいわれています。

現在は金山も廃坑同様で、ようやく百人たらずの人びとが働いている程度です。

こわれかかった波止場や、さびついた起重機の附近には、無心にトビの大群が舞い遊んでおり、観光バスの通過する町にしては、あまり人の気配もない灰色の家並が眠り、今昔の感慨を如実に物語っているようであります。

しかし、お盆の三日三晩ともなれば、町をあげて昔同様の〝おけさおどり〟が催され、近年ではますます上昇線をたどっているようで町の広場や鎮守の境内一帯は七十二時間たつぶりと「平和と友情の集い」の場となり一大祭典が展開されるのです。

「佐渡おけさ」は徳川幕府中期以後に出来たともいわれ、元来は越後地方のものだったのですが、現今では佐渡地方が本場になっています。

大正の終りから昭和のはじめにかけて、相川の「立演会」というオケサの研究団体が宣伝普及につとめ、全国にひろめられたといわれています。また、一説には北九州地方の「ハイヤ節」が変化したものだといわれ、のちに相川撰鉱場（金山）の女子労働者にうたわれてデタチで踊られています。

島全体が歌と踊りの佐渡おけさ（新潟県民謡）

こわれかかった波止場や、さびついた起重機の附近には、無心にトビの大群が舞い遊んでおり、観光バスの通過する町にしては、あまり人の気配もない灰色の家並が眠り、今昔の感慨を如実に物語っているようであります。

しかし、お盆の三日三晩ともなれば、町をあげて昔同様の〝おけさおどり〟が催され、近年ではますます上昇線をたどっているようで町の広場や鎮守の境内一帯は七十二時間たつぶりと「平和と友情の集い」の場となり一大祭典が展開されるのです。

「佐渡おけさ」は徳川幕府中期以後に出来たともいわれ、元来は越後地方のものだったのですが、現今では佐渡地方が本場になっています。

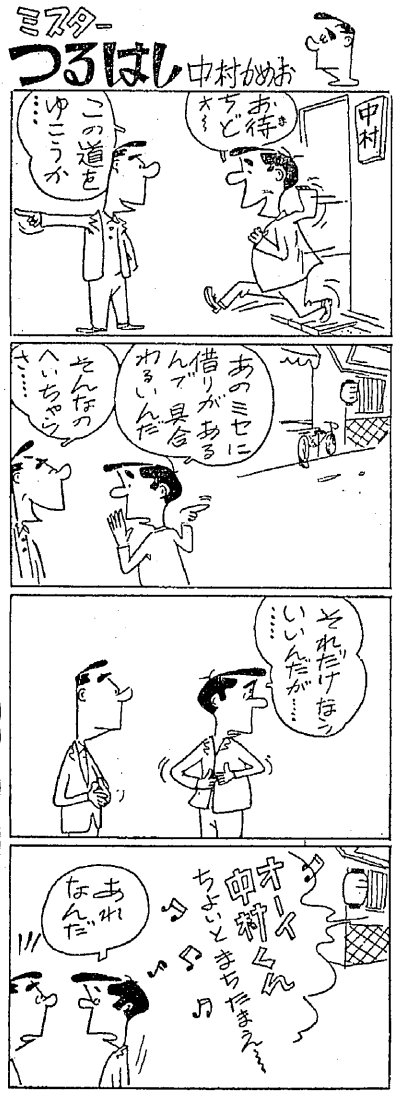
大正の終りから昭和のはじめにかけて、相川の「立演会」というオケサの研究団体が宣伝普及につとめ、全国にひろめられたといわれています。また、一説には北九州地方の「ハイヤ節」が変化したものだといわれ、のちに相川撰鉱場（金山）の女子労働者にうたわれオケサエーと〝オケサ〟にかわりさらにいつの間にか省略され〝ハア〟となったそうです。いまでも土地の古老連中は〝オケサエー〟と昔なつかしい時代を追想し歌いだす人もあるそうです。

島全体がまるで踊り歌っているような佐渡……佐渡の魅力は、奇石怪石にふちどられた尖閣湾をはじめ、海岸線の景観と、流人哀話にいろどられたかずかずの史跡、旅情にせつなくせまってくる〝おけさ〟のメロディーなどにあるようです。

優美で流暢な二拍子の旋律は、数多い郷土芸能とともに、夢と詩の島のみではなく全国のすみずみまで、平和のシンボルとして「うたごえ」はいつまでも愛唱されることでしょう。

（やました）

ミスター つるはし　中村かめお



主婦のメモ

▽サンマをおいしく焼くには煙をださないことですが、煙をふせぐため塩を入れてもよく、塩のかわりに大根などの薬のたべられないところをきざんで使うとよいでしょう。

▽秋の味覚も出そろったところですが、むざむざと捨てられているのが大根やかぶの葉です。ビタミンA・Cが豊富なこと、家計のやりくりの上からもムダなく利用を考えましょう。

港務・大観峯へ

秋はスポーツと行楽のシーズン、港務所恒例の秋季旅行は、きたる十九、二十六日の二日間にわかれて阿蘇大観峯に貸切バスで旅行を決定。

なかまの本棚（7）

近代経営とH・R「経営学入門」

近代的経営が発展すればするほど企業は機械の合理化を要求してきます。そして、もつと効用あらしめるための「人間関係」づくりが要素を占めてきました。機械と人間性の関係をたくみにとらえてきているのが現状です。

わが国の企業では最近ますます経営技術や経営学の知識を従業員に要求しています。以前の「温情主義」の経営や「カンと経験」の技術がハバをきかせていたあとに「科学的管理法」が採用されました。そして今日においてはもつと巧妙な、たいしたこととも思わずにみすごしてしまう方法がおこなわれています。

四年ほど前、職場のなかで作業や事務や技術について「このように改善したらよい」という意見を提案させ、採用されたものに賞品を与える制度がおこなわれた。この目的の重要な点は、従業員を社長とおなじ気持にならせることです。つまり「自分も会社の発展に役だち、会社もそれを認めているのだ」という意識をいだくように仕向け、知らず知らずのうちに会社側にたつ、ものの考えかたをするように頭がならされてくるのです。

著者は「東京電力のこの制度の委員会の主査も〝今回の提案募集は社員が経営に関心をもつように仕向ける一つの制度であり、新しい経営理念としての人間関係をうちたてる手段である〟と説明しているがまさにそのとおりである」とし、従業員を機械でなく、人間として取扱う近代経営のあり方と説いています。

このように会社は「生理学」「精神病学」「心理学」などあらゆる側面から人間の〝労働〟を研究し、より高い経営の収獲を求めています。

われわれはこのような現状のなかで、敵側の作戦を十分に分析しこれに対応する力の充実に努力する必要があります。すなわち会社の経営にたいする考え方、とくに労働政策をどのように考えているかを知ることが大切です。

（ひ）

坂本藤良著　光文社発行
一五〇円　（新書版）
（　）　（　）